

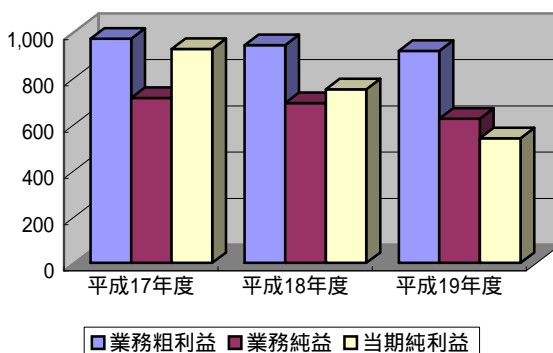
平成19年度決算の概要

1. 収益の状況

平成19年度の業務粗利益は918億円となり、前期比25億円(2.6%)減少いたしました。これは貸出スプレッドが改善したことや、繰上弁済補償金の計上方法を当期から一括計上に変更した影響等により、純金利収支が前期比+90億円の980億円となったものの、その他業務損益が前期比114億円減少の62億円となったことが要因となっております。また業務純益は624億円となり、前期比68億円(9.8%)減少いたしました。これは粗利益の減少に加え、営業経費(退職給付費用等)の増加が要因となっております。これに加え、株式関係損益369億円をはじめとするその他臨時損益474億円を計上する一方、貸倒引当金戻入益242億円を主とする特別利益389億円の計上により、当期純利益は前期比212億円(28.3%)減少の539億円となりました。

なお、連結ベースにおける証券化商品等の評価損、引当金計上による損失額合計は計338億円となっております。

【単体】業務純益及び当期純利益(億円)

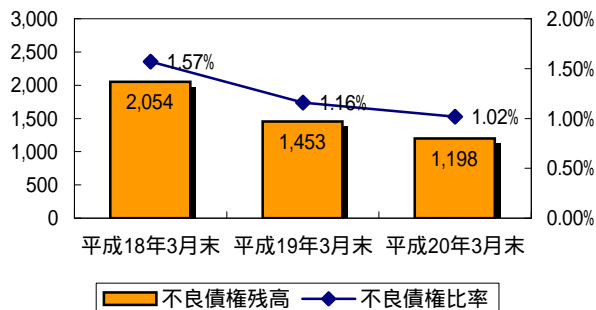


2. 不良債権の状況

金融再生法に基づく開示不良債権残高は平成19年3月末比255億円減少し1,198億円となっております。総と信残高比の開示不良債権比率は1.02%と同年3月末の同比率1.16%から0.14ポイント減少となっております。

なお、平成20年3月末の金融再生法に基づく開示不良債権に対する保全状況(保全率)は、開示不良債権全体に対して92.1%(平成19年3月末は91.2%)となっております。

【単体】不良債権残高、不良債権比率(億円、%)

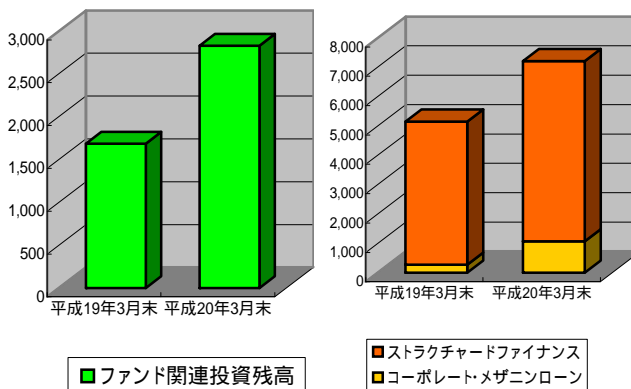


3. 投融資の状況

平成20年3月末のファンド関連投資残高は、平成19年3月末比1,146億円増加し2,830億円となっております。

平成20年3月末の融資残高は、融資額を上回る回収進捗により平成19年3月末比6,335億円減少し1兆5,129億円となっております。但し、相対的に高リターンが期待できるストラクチャードファイナンスは、平成19年3月末比1,265億円増加し6,142億円になったほか、コーポレート・メザンローンについても、平成19年3月末比794億円増加し1,063億円となっております。

【単体】投融資残高内訳の推移(億円)



4. 資金調達状況

当行の資金調達につきましては、投融資額に対し財政投融資資金がその過半を占めておりました。完全民営化に向けて安定した資金調達体制への円滑な移行を図り、投融資額に対する財政投融資資金への依存度を徐々に減らし、自己信用調達を増やしているところであります。

平成19年度からは新たな調達手段として長期借入金による1,000億円を調達しており、これに財投機関債の発行による調達を合わせた自己信用調達は、平成18年度の2,349億円から平成19年度には3,898億円と1,549億円増となり、投融資額に対する財政投融資資金への依存度は約53%となっております。

平成20年度(通期)の資金調達計画における自己信用調達は、財投機関債(民営化後は社債)、長期借入金を合わせて5,200億円を予定しており、投融資額に対する財政投融資資金への依存度は約47%となる計画であります。

【単体】資金調達内訳の推移(億円)

